

- 2024年 美瑛富士・携帯トイレへの取り組み10年目の活動報告 -

美瑛富士トイレ管理連絡会事務局
山のトイレを考える会 磯部吉克@山歩人

1. 携帯トイレブース設置から10年目へ（固定式6年目）

美瑛富士避難小屋はトイレがないため、小屋周辺にはティッシュと糞尿が散乱、さらに放射状にトイレ道ができ裸地拡大が進んでいた。2015年から小屋周辺のトイレ問題の解決策として、携帯トイレ使用の促進を図るため、テント式の携帯トイレブースを設置してきたが、登山者からは固定式のブースを望む声が多かった。2019年8月27日、登山者らの長年の要望がかない、環境省により固定式の携帯トイレブースが設置され供用開始された。



トイレ道だった場所に高山植物が咲くまでになった…

固定ブースの設置に先立ち、2019年4月25日に北海道地方環境事務所、美瑛町、美瑛富士トイレ管理連絡会の三者で「美瑛富士携帯トイレブースの維持管理に関する協定書」を締結。これにより、環境省は固定ブースの改築及び改修・大規模な修繕、美瑛町は軽微な修繕と冬囲い・回収ボックスの管理、そして美瑛富士トイレ管理連絡会はブースの点検及び清掃・周辺の清掃を担うことを定めた。

そして10年目となる2024年のシーズン、「快適に用が足せる清潔なブース」「トイレ街道と呼ばせない!ティッシュ及び汚物のない野営指定地」「ゴミのないきれいな小屋」となるよう点検パトロールを継続実施した。毎年現地を訪れて気づいたが、過去にトイレ道だった箇所の植生は復活してきている!嬉しい!



テント式携帯トイレブース
(2015年～2019年)



固定式携帯トイレブース
(2019年9月～)

2. 携帯トイレブース点検パトロール等の実施状況

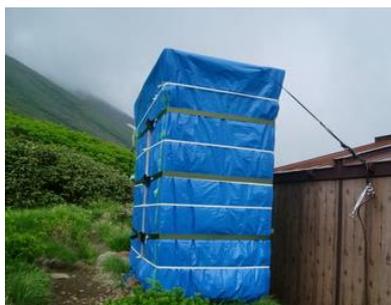
今シーズンも美瑛富士トイレ管理連絡会により、2024年6月23日～9月29日までの3ヵ月あまりの間、固定ブースの冬囲い外しと冬囲いを兼ねた2回と併せて、点検パトロールや維持管理を9回計画した。荒天により1回は中止となったものの8回実施することができた。参加人数は過去最多の80名となった。

■ 2024年 携帯トイレブース点検パトロール等の実施状況

- ① 6月23日（日）… 携帯トイレブースの冬囲い外し（供用開始）：13名
（美瑛町・環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会）
- ② 7月07日（日）… 大雪山国立公園パークボランティア連絡会：11名
- ③ 7月21日（日）… 道央地区勤労者山岳連盟：15名
- ④ 7月28日（日）… 札幌山岳連盟：5名
- ⑤ 8月04日（日）… 北海道山岳連盟：10名
※前日、白金野営場に宿泊したが雨のため中止
- ⑥ 8月18日（日）… 日本山岳会北海道支部：2名
- ⑦ 9月08日（日）… 道北地区勤労者山岳連盟：8名
- ⑧ 9月24日（火）… 北海道山岳ガイド協会：3名
- ⑨ 9月29日（日）… 携帯トイレブースの冬囲い（供用終了）：13名
（美瑛町・環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会）

延べ8回実施／80名参加

■ 2024年 点検パトロール等実施報告(主な概要) ※詳細は山のトイレを考える会のHP参照



〔6月23日〕

携帯トイレブースの冬囲い外しを行う。ブースは昨秋の冬囲いのまま完全に残っており、損傷部分は殆どなかった。塗装状態も良好であった。ブース周辺にティッシュが3ヶ所と生理用品と思われるゴミが1ヶ所あった。白金温泉回収ボックスの鍵番号「530」が分かるように、林道ゲートや入林届箱、ブースや小屋内などに周知掲示した。



〔7月7日〕

主に小屋裏手のテント場にティッシュや汚物が見つかった。石を載せて隠している汚物も見付き、ブースが設置してあるにもかかわらず、汚物が確認されてしまう状況は遺憾でならない。回収ボックス裏に大量のゴミを発見。



〔7月21日〕

テント場はきれいだった。ブースの山側にテント場があり、人の姿が隠れる茂みが密集している。この茂みの中に汚物やティッシュ、嘔吐物などがありスコップで回収した。この辺の茂みは格好の「姿隠し」になるため、刈払いなどの検討が今後必要である。十勝岳望岳台の回収ボックスは満杯状態！



〔7月28日〕

汚物は3個回収。登山道脇に石で隠してある汚物や小屋下のテント場付近にある草地で汚物が草の葉で隠してあった。宿泊者の全員が携帯トイレを持参していた。埋まっていた古いゴミも回収した。



〔8月4日〕

前日、白金野営場に宿泊したが悪天候のため中止とした。引き続き北海道の自然を守るためにティッシュの持ち帰りや携帯トイレの使用、ゴミ拾いなどの協力をお願いしたい。



〔8月18日〕

ブース内の棚の上に携帯トイレの外包と切れ端が残されていたほか、タオルやティッシュのようなものが入った袋と何かの梱包材と思われる紙があった。床の網状鉄板の下にも開封した袋の切れ端など細かいゴミが落ちていた。全てゴミとして回収した。ブース周辺には目立ったゴミはなかった。





〔9月8日〕

トイレブース内外には、殆どゴミや汚れはなかったが、内部に歯ブラシやポケットティッシュ、凝固剤の袋が残されていた。天候が悪く集合写真は失敗した。



〔9月24日〕

汚物は買い物ビニール袋に入っていて小動物に食いちぎられていた。汚物とティッシュの回収場所はブース裏のテント適地。小屋内に残置してあったペットボトルや傘、バンダナ、バイザーなどのゴミを回収した。



〔9月29日〕

今年も多くの協力者により手際よく冬囲いを終えることができました。ブースの周辺には、ティッシュゴミが2個、携帯灰皿1個、ペットボトル1個あり回収した。年々降雪量が少なく雪融けが早いことからブースの冬囲い外しは、十勝岳の山開きの前に取り組む必要があるかなどの意見もあり6月の早い時期に供用開始する必要があるかなどの検討が必要。



3. 携帯トイレブースの利用数365回

2022年から携帯トイレブースの利用数（カウンター値）を調査してきたが、2024年、はじめてほぼ正確な値（利用数365回^{※1}）を得ることができた。



携帯トイレブース内のカウンター

2021年までは、カウンターのリセット部分を操作された形跡（悪戯等）があり、2022年には、リセット操作防止のためにカバーを設置したものの、最終的にはカバーも破損、2023年には金属製カバーに変更した。しかしながら、使用者の故意か過失かは不明だがカウンターの異常値が多く、残念ながら信頼に



足る数値は得られなかった。今後も、正確な数値が得られるよう創意工夫し利用数の統計を取っていききたい。結果としては、前年の推計利用数と比較して、微増傾向^{※2}ではあるが、ブース利用者は確実に増えている。

■ 2024年の携帯トイレブースカウンター値^{※1}

月/日	6/23	7/7	7/21	7/28	8/18	9/8	9/24	9/29
数値	4	43	136	181	249	283	352	365

■ 2015年～2024年（10年間）の年度別携帯トイレブースの利用数^{※2}

年	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
利用数	*88 以上	179	180	196	218	203	201	*142 以上	*277 以上	365

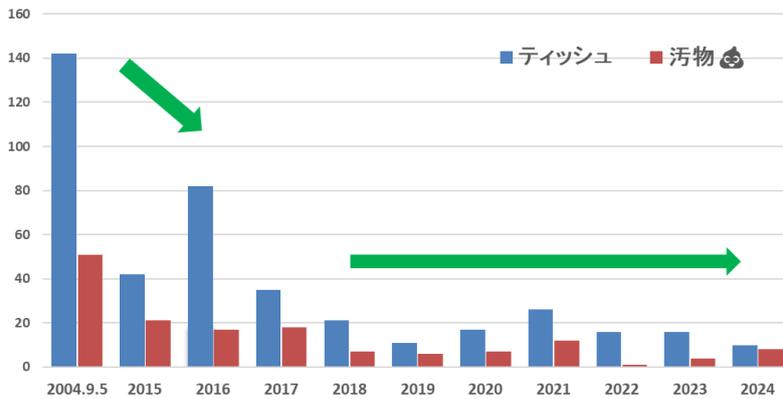
*2015年、2022年、2023年は誤作動等による推定数値

4. ティッシュ、汚物等の回収状況

2015年から避難小屋周辺の点検パトロールを継続実施して10年目を終えた。2024年における小屋周辺のティッシュや汚物等の回収は、ティッシュ類10個、汚物類8個、ゴミ類8個であった。記録にある2004年から激減しているが、2018年からは、ほぼ横ばい傾向にある（下記図参照：年度別推移）。マナーを守れない登山者は一定割合いるが、その割合を減少させ、限りなくゼロにするため、そして携帯トイレの認識率や所持率を100%に近づけるために、引き続き点検パトロール並びに各種啓発活動を担っていきたい。

また、登山者が安心して携帯トイレを使用できる環境整備や美瑛富士避難小屋を利用する場合は携帯トイレを必ず所持するといったより一層のSNSの広報など、今後も地道な活動の継続が必要である。

美瑛富士ティッシュ・汚物回収数年度推移



5. 携帯トイレのさらなる認知度及び普及率の向上に向けて

携帯トイレの普及活動等において、引き続き身近からできる取り組みとしては、情報発信に力を入れる必要がある。ネットの交流サイト（SNS）であるフェイスブック（Facebook）やインスタグラム（Instagram）、X（旧ツイッター）、ヤマレコ、YAMAPなどを活用し、道内外の登山者へ携帯トイレの携行を奨励し、トイレブース等の利用や使用後は回収ボックスへの利用も促していきたい。

また、当会としても、引き続きSNSの活用だけではなく、直接的な登山者への携帯トイレ持参への呼び掛けや学校教育、青少年教育なども活用し、「携帯トイレの山」の実現に向け一層努力をしていきたい。

「携帯トイレを使うには、最初は抵抗があるが、1回使うと慣れます！美しい山の環境を守るためぜひ積極的に使用してくださいね！」

※当会仲俣事務局長から携帯トイレについて説明を受ける東川町と美瑛町の愛護少年団員（8/6 大雪山十勝岳愛護少年団交歓会 東川町・旭岳ビジターセンター主催）

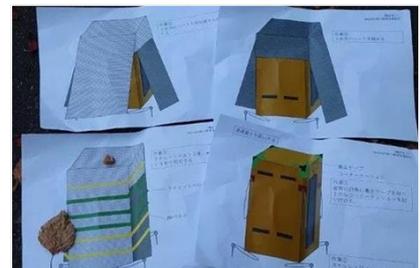


6. 次年度（2025年度）の課題解決等に向けて

（1）確立された冬囲い方法と冬囲い外しの時期について

美瑛富士避難小屋に固定式の携帯トイレブースができて6年が経った。ブースは約7か月間、雪に埋もれる…ブースを長持ちさせるため、毎年10月上旬に冬囲いをしているが、山に吹く風はそう甘くはない…完璧と思える冬囲いも、翌春には無残な状態で私たちを迎えてくれたこともあった（涙）。

せっかく設置された固定式携帯トイレブースを、今後数年でも長く快適に使用し続けるためには、厳しい気候や環境に耐えられる保護体制が不可欠である。これまで何度か失敗を重ねたが、より安価な汎用部材で、誰が実施しても一定レベルの作業が実施できるよう環境省による一定のマニュアルを完成(2022年の冬囲いから)させた。このマニュアルを参考に、現在はベテランの会員や地元役場の若い方も協力してくれて作業は捗っている。今後も厳しい自然環境に耐えられるよう安定したブースの保護は必要となる。



また、地球温暖化等の影響により、年々降雪量は少なく雪融けが早いことからブースの冬囲い外しは、もう少し早い時期に供用開始する方が良いなどの意見もあることから各関係機関と実施に向けた検討をしていきたい。なお、トイレブース閉鎖後も引き続き携帯トイレを使用し、ゴミの持ち帰りにご協力いただきたい。

わかりやすく見やすいマニュアル

（2）携帯トイレ回収ボックスについて

「回収ボックスは、ゴミ箱ではありません！」
白金温泉公衆トイレ横の回収ボックスは、観光客によるゴミ不法投棄防止のため、今年からダイヤルキーで施錠することになった。



観光客がトイレに列をなす…
オーバーツーリズム対策も課題

鍵番号は「**530（ゴミゼロ）**」。今回、鍵番号の周知が課題で、トイレマップのほか登山口ゲートや入林届箱、避難小屋内、ブース内などに掲示した。今後は外国語表記が必要でありデザインも含め検討していきたい。また、鍵番号を合わせるラインがわかりづらいとの声もあり外国語表記と併せて検討していきたい。



近年、嬉しいことに携帯トイレブース及び下山後に回収ボックスを利用する登山者が一般化してきている。引き続き下山後は携帯トイレ回収ボックスへ！皆様のご協力をよろしく申し上げます！

(3) 携帯トイレを使用して「人間は変わる!？」

小生、微力ながら当会の運営委員となって5年目（会員は9年目）。
当会に入るまで、山行での排泄物はトイレ以外では残置してきてきた（数回ね…）。山の神様に「ごめんなさい～」と謝罪の日々。神の聖域…いつか罰があたるかも…。

「罪滅ぼし」ではないが、当会の会員となり、現在は、運営委員としてお手伝い…毎月のミーティング等により携帯トイレの携行や利用、バイオトイレの仕組みなどを熱く語る当会の事務局長に感化され、数年前から、ブース利用だけではなく、テントの中、誰もいない山頂で…ブリブリ「けっこう快感…💩笑」携帯トイレを積極的に利用してきた。



「習うより慣れろ」…最近の携帯トイレは凄い！防臭力・使いやすさ・凝固速度・受け口の大きさなど超便利！快適！…いつの間にか必要に応じて携帯トイレを持参し使用している。



満杯になった十勝岳望岳台の回収ボックス

使用後はザックにぶら下げて「重～い（泣）」…下山後は携帯トイレ回収ボックスへ。回収ボックスが満杯になるところもある（嬉しい悲鳴…）。

大雪山では、登山者の排せつ物による環境悪化を防ごうと、官民が連携して



山のトイレを考える会のHP

携帯トイレ持参と利用を呼びかけている。山のトイレを考える会のHPには、回収ボックス情報や、携帯トイレの取扱店などが掲載されている。ぜひ興味のある方は見てほしい！

最後に、2024年携帯トイレブースの設置（テント式・固定式）から10年目を迎えた。これもひとえに各関係機関の方々のご支援とご協力があったからこそこの活動である。これからも変わらぬご支援とご協力をお願いしたい。

「携帯トイレを使おう!」「北海道の美しい自然をいつまでも!」

(以上)

【美瑛富士トイレ管理連絡会の構成団体】

北海道山岳連盟・札幌山岳連盟・北海道勤労者山岳連盟・北海道道央地区勤労者山岳連盟・北海道道北地区勤労者山岳連盟・日本山岳会北海道支部・北海道山岳ガイド協会・大雪山国立公園パークボランティア連絡会・山のトイレを考える会